

2015. 11. 12 (木)

未来と自分

今 井 信 雄

きょうは「希望をもつということ」というお話をいただきました。何をお話しさせてもらおうかといういろいろ考えておりましたが、これまでに3回か4回ぐらい、ここでお話させてもらっています。ここに来ると個人的なことをお話ししなければならぬのではないかと気もしくもありませんが、きょうはそれも含めて、私の考えている社会学とは何かとか、皆さんの生活についての希望ということについてお話しできたらと思います。

私は今、秋学期で「記憶の社会学」という授業をしています。先週や今週も授業があったのですが、その中で「過去の出来事、自分が経験したことというのは、自分を形づくる重要なものである。その経験を基に、自分がどのようなことを考えたいのか、自分がどうあるべきかを見つめ直すことになるのだ」という話をしています。社会学の理論では、いろいろな理論がありまして、自己論とかアイデンティティ論というものがあるのですが、その話と関係させながら授業をしています。

「希望をもつということ」について言えば、希望というのは、もちろん過去から生まれるということもあるのですが、「自分がこうなりたいな」とか「こういうふうになればいいな」という希望をもつとすれば、実は、そ

れは「今の自分」よりも「未来」のことだと考えることができるのではないかということなのです。よくいわれるように、例えば今、勉強とか就職活動など何でも、何かを頑張っている、それはなぜ頑張っているのかというと、将来何年かたった時に「あの時もうちょっと頑張っておけばよかったなと後悔したくないから」とか「後で、こうしておけばよかったなと思いたくないから」というような考え方があって頑張っている人もいます。それは実は、過去ではなく、未来の自分を通して今の自分の在り方を考えているのではないかと思えるのです。ですから、過去との対話の中で自分というものをつくるということを経験した中としては中心にお話ししているのですが、実は、そこから生まれてきて、未来の自分との対話の中で今の自分というものもつくられるのではないかと思うようにはなっています。授業の中ではそのようなことを時々詳しくお話するのですが、皆さんの生活の中でもいろいろ、そのようなことはあるなと感じると思います。

ということは、「未来の自分を考える」ということは単純に言うとなすごく大事なことで、「今の自分がどうあるべきか」を考えることになるのではないかと思うのです。ただ、日常的に皆さんは思われていると思うの

ですが、希望というのは思い通りにならないこともあります。思い通りにならないことのほうが多いかもしれませんが、そのときにどうするかということが、日々私たちに課せられている命題というか、生きていく上で直面することだと思います。皆さんは学生で、私も学生を指導する立場にいますが、学生と接する中で近いのはゼミ生なので、きょう皆さんにお話しする上で、昔のゼミ生のことを少し思い出したり、昨日はあまり触っていないSNSで近況を見たりしていました。

隠れた希望

すると、私のゼミの1期生だった学生のうちの1人が、今はミュージカル女優をしているということが分かりました。まだ駆け出しだと思うのですが、東京のほうでいろいろ活躍していて、ブログなどを作って芸能人のようになっていることを知りました。その学生が社会学部を卒業した後に音楽大学に進んだことは、知っていました。なぜ音大に行ったかという「音大に行って音楽の教師になりたい」と当時は言っていて、卒業した後、音楽の教師になる前に「音楽学校で知り合った先生と一緒にミュージカルをやるので見に来てください」というような連絡が来たので「行けたら行くわ」と言って、ゼミの中でも紹介したり、授業と重なって行けなかったのですが、その辺までは知っていました。その後2年ぐらいたって今は女優になっているのですが、ブログを作っています。一番最近のものをたまたま見ると、そこには、実家に帰った時に昔の日記を見つけて「自分はこんなことを書いていたんやな」ということ、社会学部の1回生だった時の日記の中

に「私、これでいいのかな。もう1回ちゃんと歌やりたい」というふうに書いていて「その時から思ってたんや。何、それ」みたいなことを自分で書いていました。

そこで、きょうの話と関係するなと思ったのは、その学生はどのような入試形態か知りませんが、自分で希望して関学の社会学部に入学して、希望通りになったのに結局「音楽で生活したい。音楽が好きである」とずっと思っていて、卒業の後はそちらのほうの道に行きました。「音楽の先生をやる」と僕は聞いていたのですが、結局それも、多分、彼女の中に「自分は音楽で生活していきたい。人生の中でそれを中心に生きていきたい」というもともと希望があって、そちらにだんだん戻っていったのかなと思いました。社会学部を希望して入学して希望通りになった、それは希望がかなわなかったのではなく希望通りになったのですが、何かを希望するというのは、その希望の後ろに別の希望が実は隠れていて、例えば何かをしたいと自分で思う、極端に言う、思い込んでいる中で、むしろ別の希望が隠れているのではないかというふうに思ったのです。

つまり、希望をもつことは大事だという話は先ほどしたのですが、それだけではなくて、実は、自分の中には別の希望もあるのではないかと、今自分が思っていることではないことも自分の中でくすぶっていることはあって、それが時々出てきた時には、その気持ちを大事にもらえるといいかなと思いました。それが1人目の紹介です。

希望が叶わなかったとき

もう1人、少し紹介しようと思います。

これもゼミ生の話ですが、そのゼミ生も1期生の女子学生で、就職活動がうまくいきませんでした。就職活動をして希望がかなわなかった後に、結局どうしたかという、単身でアメリカに渡りアメリカのディズニーランドに出店している店舗の食堂で働くようになりました。時々 SNS にアップされているものを見ると、寿司バーみたいところでオリエンタル風のメイクをした女性が寿司を握っているという、なかなかアメリカでの日本の表象みたいなものも見えてくるのですが、それはすごく楽しく働いている様子で、そこで生きがいや新しい希望を見つけているようにみえます。ただ、それはその食堂を経営している会社での契約で、その契約が終わったら帰国しなければならないという状況でした。当時、そのゼミ生とご飯を食べにいったのですが、結局その後、アメリカに戻り、1年ぐらい前に帰ってきて今は東京のほうで吉本興業のレーベルの社員みたいなものをして、そこはそれで非常に楽しくやっているようです。

ということは、一般的に多くの学生が希望するような、自分が就職を希望してそこにスッと行ったわけではなくて、紆余曲折して自分の今の生活というものを過ごしている元学生たちなのですが、例えば、アメリカのディズニーランドに行った学生なんかは、希望していたものがかなわずアメリカに行って、アメリカにもずっと居たいと思ったけれどもそれもかなわず東京に来て、そして、東京でまた楽しくやっているという感じです。希望というのは、かなわなかった時はもう、それはなくなるのですが、その学生を見ると、

ないけれどもまた希望が湧いてくるような、もともとあったものも湧いてくるだろうし、日々生活していく上でも次の目標なり希望なりというものが出てくるのかなとも思いました。単純な言い方をすると、人生長い中で、何となく生活していく上でも、希望というものはどこから湧いてくるように思ったのです。

皆さんにもいろいろ自分の希望というものがあるって、多くの学生にとって一番切実な問題は就職活動だと思います。最近も新聞報道で時期が変わったりという報道がありますが、あまりにもそれにのめり込み過ぎて、それしか希望がないという感じになると、希望がかなわなかった時に絶望になってどん底に落ちてしまうというふうに思います。でも、希望というのは、自分がもっている希望ではない隠れた希望もありますし、それがもしもかなわなくても、どこから何か、生活しているうちにいろいろなところから自分に希望が湧いてくるものなのだということを、何人かの学生を見ていて思いました。

皆さんは、これからの人生の中で社会に出ているいろいろな場面に出くわすと思いますし、自分の希望がうまくいかないこともあると思います。そのときにも「何とかなる。自分の中にもっと違う希望があるのではないか」「そのうちいいことがあるかな」と思って生活していると、うまく回っていくことも結構あると思うので、これからそのような感じで、凝り固まった希望ではなく、いろいろなところにある希望を探しながら、人生を歩んでいってもらえばいいかなというふうに思いました。私の話は以上です。

(社会学部教授)